



# 病院だより

南砺市民病院  
〒932-0211 富山県南砺市井波938番地  
TEL 0763-82-1475  
FAX 0763-82-1853  
<http://shiminhp.city.nanto.toyama.jp/>



内科 荒幡 昌久

新聞・テレビでも取り上げられました

## 食べる力の重要性

超高齢化社会の到来とともに、人生の最終章における摂食嚥下障害（＝食べられない、飲み込めない状態になること）にどう対応すべきか問題となっています。近年、食べられなくなった高齢者の方々に胃ろうなどの経管栄養を利用して命を延ばすことについて、多くのマスコミが取り上げ、その是非が議論されるようになりました。そのほとんどは、胃ろうのネガティブキャンペーンとなっている感がありますが、胃ろうの善悪の議論の前に、「本当に食べられないか？」「元の状態に戻らないか？」を十分に検討することが重要であると私たちは考えます。十分な検討の上に「もう戻らない」「人生の終末期である」と結論付けられれば、延命処置に対する是非は自ずと明白になるのではないのでしょうか。

レポート “原因究明”で再び食べる力を



## チーム医療で半数以上が改善

南砺市民病院では、「人生の最期まで口からおいしく食べて終われる社会づくり」をスローガンに、2012年度より摂食嚥下機能評価チームを立ち上げました。その活動は、高齢者の摂食嚥下障害に対して、これまでよりも広い視野で深く検討し、多職種の技術を1つに集約し、この難題を解決する新たな方法を導くことです。1年間の勉強と準備の後、2013年度から重度の摂食嚥下障害の認知症患者さん（点滴や経管栄養に頼らなければ生きられない状態）を対象とした臨床研究を開始しました。それ以前には、こうした患者さんで点滴や経管栄養が不要になるまで改善できたのは3に1人の割合でしたが、2013年度以降は半数以上が回復できるようになりました。この成果は、学会発表や新聞記事を通じて多方面から注目され、2015年6月にはNHK放送のニュース番組でも取り上げられました。



摂食嚥下機能評価チームの検討会

## 研究から通常診療へ

この2年間の臨床研究は、入院中の重度の障害患者さんに限定していましたが、2015年度からは、研究ではなく通常の診療として行える体制にしました。さらに、今後は対象範囲も広げ、多くの患者さんに貢献できるようにしたいと考えています。



# 病院に勤務してもうすぐ1年になります — 1年を振り返って —



看護師  
桧木 真亜弥

看護師として働き始めて最初は環境に慣れることや技術を覚えることに必死でした。しかし少しずつ患者さんやご家族の気持ちも考えることができるようになりました。まだまだ周りの先輩方の協力が必要ですがこれからもたくさんの技術など勉強して寄り添う看護ができるように頑張ります。

## 先輩からのメッセージ 嶋谷 由紀乃

桧木さんはいつも優しい笑顔と明るい声で患者さんに接することができていますね。その親しみやすさと患者さんを思いやる気持ちを大切にしてください。これからも頑張ってください。そして看護師としての知識や技術をたくさん身につけて信頼される看護師になってください。期待しています。

最初は慣れないことばかりの日々でしたが、先輩方に支えられながら今は自分なりに生き活きと仕事をする事ができています。まだ知識や技術不足を感じる事が多くあるため、もっと勉強していきたいです。これからも多くの患者さんを笑顔に出来るように思いやりの心を忘れず頑張りたいと思います。

## 先輩からのメッセージ 吉岡 慎司

入職から1年が経過し、自信のなさが見え隠れしていた背中から少しずつ理学療法士としてのオーラが出てきたように思います。患者さんと多くの時間を過ごしながら自信をつけていき、笑顔になってもらえるようこれからも一緒にがんばりましょう。



理学療法士  
橋本 晶



看護師  
石森 陽美

看護師として働き始めもうすぐ一年になります。混合病棟で覚えることがたくさんあり、慣れない環境の中、不安で自信を持ってない日々を過ごしてきましたが、先輩方に丁寧に指導して頂き、自信を持ち行える技術も増えてきました。忙しい病棟ではありますが、患者さんに寄り添う看護を志していきたいと思っています。

## 先輩からのメッセージ 大久保 綾佳

入職して1年近くが経ち、始めは不安そうにしていたのが今では積極的に仕事をしていて頼もしく思っています。これからも学ぶことが多くあると思いますが一緒に学んでいきましょう。石森さんの素敵な笑顔で患者さんと寄り添う看護を目指していきましょう。

南砺市民病院に勤めてもうすぐ一年が経ちます。様々な患者さんと関わりながら、多くのことを学ばせて頂く毎日です。まだまだ勉強不足と感ずることが多くありますが、いつか、「あなたで良かった」と言われるようなスタッフになれるよう、努力し続けていきたいと思っています。

## 先輩からのメッセージ 藤井 初恵

新潟出身の西潟さん。  
富山弁にも慣れて、最近は患者さんとの笑い声も。  
素直で優しい気持ちは患者さんに伝わっています。  
自分のリズムを大切に、時には道草しながら、小さなあゆみを重ねてください。  
西潟さんのフレッシュな頭脳が、私を日々刺激し成長させてもらっています。



言語聴覚士  
西潟 晴花

はじめの頃は慣れないことやわからないことが多く、くじけそうになることもありましたが、指導して下さる先輩方や患者さんの笑顔に励まされてきました。また、退院調整を行い長期間のリハビリをともに乗り越え、元気に退院される患者さんを見送ることに喜びを感じています。まだまだ未熟ですが、これからも精一杯がんばります。

## 先輩からのメッセージ 片山 由香里

吉田さんの、患者さんにいつも明るい笑顔で接している姿は、とても素敵で私も優しい気持ちになっています。新しいことにも前向きに取り組んでおられ、よい刺激をもらっています。覚えることがたくさんありますが、これからも一緒に頑張りたいです。



看護師  
吉田 友佳

★これからもよろしくお願ひします。★

